



Title	俳句
Author(s)	古谷, みつる
Citation	懐徳. 1938, 16, p. 53-53
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89012
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

蝸^で牛^もの其まゝ竹の落葉かな
移りゆく青田の中の夕日かな
星一つ飛ぶ見ゆ旅の端居かな

水上生活

古谷みつる

水飯に何處かマストの灯がひかる
船揺れて夏潮漁夫をぬらしたる
ゆかた着て漁夫の妻の若ければ
船底に午睡の覺めて潮の音

○

藤塚紅果

平野家を出る微醺や春の宵
若草におのづからなる小徑かな
船は今朝の浦ゆく月今宵

(圓山)